

平成 28 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	200	学校名	沼津市立沼津高校	記載者	高木ゆかり
------	-----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<p>教育活動全体を通じて、バランスの取れた心身の発達を促すため、特色ある个性的な施策を企画し実行する。</p>	<p>①家庭学習の充実 ②生徒授業アンケートに基づく授業改善の推進 ③学校行事の精選・再検討 ④文武のバランスに配慮した学習指導、生活指導 ⑤対人関係処理能力向上に配慮した特別活動運営 ⑥学力向上について、選抜クラス及びYコースが全体をリードすることを配慮。 ⑦同窓生並びに本校縁者の著作コーナーの設営。 ⑧図書館機能の利用拡大策の研究・実践。 ⑨図書委員会自主活動を拡大。（調査・研究活動、読書啓発活動など1新規事業） <高校> ⑩1年次選抜クラスの2クラス運営管理、Yクラス3クラス化を検討（学年、学力向上委員会との連携） ⑪Y、Gコースのカリキュラム研究 <中等部> ⑫学力向上施策の実施・運営・管理、特に中等部3年生の学力検査・調査・土曜学習、高校入試事前指導等の実施管理 ⑬道徳教育の充実・推進</p>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中高教員の相互乗り入れなど各教科での情報交換を図ることで、学力向上や勉強する雰囲気作りについて検討した。 ・目的意識を持たせ、学力の必要性を理解させる。 ・学年内での成績分布の二極化への対応を検討する。 ・現行の教育課程はもちろん、新学習指導要領の情報収集を行い、次期教育課程の検討を深める。 ・全校ボランティアの実施時期と情報モラル講座の内容は更に検討する。 ・部活動時間その他、活動基準の共通認識が不足している面を踏まえ改善する。 ・PTAの会則改定を検討。諸行事への参加方法について更なる検討 ・中高合同での情報・課題共有が不十分であったので合同の外部テスト分析を検討する。
イ	<p>中高一貫教育を効果的に展開するため、実効性ある2-2-2ステージ制を構築する。</p>	<p>①中高授業交流の推進。とくに中等部3年生 ②中高一貫部活動指導運営管理 ③中高混合講座編成・運営の可否について研究 ④高統一学力コンクール（ex 漢字・熟語、日本史、英単語など）の計画的実施（基本原則の策定：難易設定の基準、結果公開基準、褒賞など）</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生による中等部生の学習支援活動は好評であった。実施方法を検討し継続事業とする。 ・高1と中3での合同レクを、双方の学年委員による企画運営で実施したい。 ・教職員の交流により相互理解は進んだが、より深化していく必要がある。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ウ	命の教育」を徹底しながら学校生活の安全・安心を確保するとともに、自律的・主体的な生活態度を養い、自己管理能力を高める	①基本的な生活習慣の定着（挨拶、身だしなみ、時間管理、規範意識など） ②欠席・遅刻・早退の削減策を実施し、前年比5%減を達成。 ③教職員・運動部部員へのAED使用訓練、救急法研修 ④ボランティア活動の計画的実施管理の徹底（生徒会） ⑤生徒会活動の活性化（自治的、社会的、沼津市民的活動への自発的展開） ⑥教室やフロアラウンジ等の施設環境の整備・美化。 ⑦清掃活動の再検討（清掃教育、清掃場所、用務員との連携） ⑧交通事故防止啓発活動（生徒会・発生件数0） ⑨体罰やいじめ等の早期発見、早期解決の体制づくり（いじめ件数0） ⑩保護者との連携を強化し、個に配慮した指導を進め、いじめ0を図る。 ⑪携帯・スマホの使用に関する指導・管理（実態調査及び調査結果の広報） ⑫中高一貫部活動指導運営管理・ネット依存対策、携帯・スマホの使用に関する啓発 ⑬問題行動への予防的生徒指導、事後指導の実施 ⑭サポート会議の効果的運営（予防的早期対応措置） <中等部> ・自尊感情の向上 ・不登校生徒への積極的対応	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の誤った使用が、いじめにつながるような指導を今後も進める。 ・情報社会の変化に伴う新たな課題への対応。スマホとの適切な活用ができるように保護者との連携を進める。 ・体罰やいじめはどこでもいつでも起こり得るという認識の下、カウンセリング室・保健室を相談窓口として利用しやすいようにする。また、個々の生徒・保護者・職員に寄り添うサポートができるようにする。 ・初期指導及びそれ以降の人間関係プログラムの活用を図る。 ・障害者差別解消法を踏まえ合理的配慮について検討している。またその意識が教職員にも広がりつつある。
エ	特色あるキャリア教育を組織的・系統的に再構築する。	①中高一貫における系統的キャリア教育体制の整備 ②中高一貫における系統的進路指導体制の整備 ③模試結果分析処理（学力向上委・学年・教科との連携運営） ④土曜補講や平常補講のあり方検討 <高校> ・国公立大合格者数10%増 ・AO、推薦受験者に対する指導方法の検討 ・国際交流事業を推進し国際理解教育の活性化（カラマズー研修、留学生の受け入れ）	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・補習や模試分析など安定的に実施され、生徒の進路達成率も上昇し、先生方の工夫努力の成果が現れている。 ・キャリア教育事後レポートや生徒の反応から、この企画が生徒の社会体験として有効であったことが認められた。 ・カラマズー研修の事後報告会を検証し、より他生徒に還元できる方法を検討したい。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
オ	<p>教職員研修の充実を進め、教育的実践力・指導力を高め、さらには学校改善に改革的意識を持って学校経営に参画する。</p>	<p>①校内職員研修の年間計画的実施・授業づくり、防災、発達障害、救急法、とりわけ、各教科中高連合による授業研究について、授業公開を含め実施管理。</p> <p>②一貫教育を踏まえた系統的・継続的な授業研究の推進。</p> <p>③授業を公開、授業研究結果を学校内外に発信。</p> <p>④ユニットによるサポート制度の継続運営。</p> <p>⑤ALユニットの管理運営普通5教科の教員（指名）5名によるユニットによる授業研究。</p> <p>⑥新テストを見据え、アクティブラーニングを基盤とする中高一貫校としての授業形態を研究し、全教員に提示</p> <p>⑦PTA研修費による職員研修の効果的利用（横浜市立南高校への派遣研修等</p> <p>⑧各種研修実施へ向けて調整（特別支援教育研修の毎年実施、授業力向上研修等</p> <p>⑨特別支援教育（疑いを含む発達障害者指導）への組織的対応の研究</p>	A	A	<p>・パソコンの入替えに伴い、ICTの活用を図り、情報機器の選定やルール作りに努める。</p> <p>・次年度、ALユニットメンバーだけでなく、他の教員も巻き込んで全体としてAL授業研究を進めていく。</p> <p>・発達障害およびグレーゾーンについて職員の理解を深め、予防的な対応を図る。（後手に回るが、反省を元に改善していると思われる）専門家の助言やコーディネーターの継続的育成を図る。</p> <p>・多岐にわたる学校課題に対し、具体的・実践的に研修が行われ、成果もある。</p>